

■ **ご挨拶**

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜わり、誠にありがとうございます。

このたび、平成26年度中間期の業績などについてご説明した「中間期ディスクロージャー誌2014」を発刊致しました。ぜひご一読いただき、商工中金に対するご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

■ **金融経済環境**

平成26年度上期のわが国の景気は、消費税率引上げ後の反動減や輸出の低迷によって停滞したものの、政府による経済対策の効果や、企業収益の改善による設備投資マインドの回復などから、緩やかな持ち直し傾向を辿りました。

商工中金の「中小企業月次景況観測」によると、中小企業の景況感は反動減により一時的に悪化しましたが、機械製造などの加工業種では底堅い動きがみられました。一方、内需関連業種では、仕入価格の上昇や人手不足等もあって回復が遅れがみられ、中小企業の景況感は改善に一服感が生じました。

■ **平成26年度中間期の回顧**

このような環境のもと、東日本大震災からの復旧・復興や原材料・エネルギーコスト高等による中小企業の皆さまの業績・資金繰りへの影響を踏まえ、危機対応業務を中心に引き続きセーフティネット機能の発揮に最大限の対応を図り中小企業の皆さまの資金繰りや経営の安定化へのサポートを通じて、地域の雇用維持・経済の安定に貢献できるよう、取り組んでまいりました。

収支につきましては、貸出金に係る利鞘の縮小等により資金運用収支が減少いたしました。138億円の経常利益、56億円の中間純利益を計上することができました。この間の株主の皆さまならびにお取引先の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げます。

■ **平成26年度下期の業務運営**

景気は回復しつつあるものの、消費税率引き上げに伴う反動減と実質所得の減少により個人消費等が減少していることに加え、輸入原材料価格の上昇や人手不足による影響等、中小企業の経営環境・資金繰りは依然として予断を許さない状況にあります。特に地域中小企業においては、人口減少・少子高齢化等の構造変化がもたらす影響に引き続き注視が必要であります。

商工中金は、業績・資金繰りに影響が生じている中小企業の皆さまを支えていくため、引き続き、セーフティネット機能の発揮に組織をあげて最大限の対応を図ってまいります。

また、商工中金の強みであるネットワーク機能、総合的な金融機能を結集し、グループ一体となって、地方公共団体、地域金融機関など地域の各機関との連携を一層図りつつ、お取引先に対する成長、再生支援等に全力で取り組み、地域の面的な取り組みへと繋げ、地域経済の活性化に貢献してまいります。

成長支援については、集約化や生産性向上等設備資金ニーズに対し、迅速かつ的確に成長マネーを供給するなど、お取引先の持続的成長をサポートします。また、地域の中核となる中小企業等に



対してのリスクマネー供給スキームの構築を図ります。

さらに、海外進出や農工商連携、医療介護等の成長分野へ進出するお取引先に対して、資金面のみならず情報提供など総合的なサポートを行うほか、中長期的な産業構造の変化を見据え、幅広い業種・業態において事業再編や構造改革の動きが加速することが見込まれる中、「ビジネスマッチングやM&A等の企業間連携支援」、「事業承継支援」への取組みを強化してまいります。

再生支援については、経営改善が必要なお取引先に対して、事業再編を含めた能動的かつ抜本的な再生支援に取り組むほか、業況が改善しているお取引先に対しては、金融取引正常化とその後の成長支援に取り組みます。

このような中小企業の皆さまのニーズに応じていくため、債券（募集債）による安定的な調達に加え、個人・法人預金等の預金調達基盤の拡充を図るとともに、業務の効率化等、一層の経営合理化に不断に取り組んでまいります。

これら諸課題への取組みを強化することによって、中小企業組合と中小企業の皆さまの成長と企業価値向上及びそれを通じた地域活性化に貢献するとともに、商工中金自らの健全な経営基盤の構築と収益力の向上へ繋げてまいります。

■ **むすび**

厳しい環境が続きますが、「中小企業の、中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、支持され、これまで以上にお役に立てるよう、役職員一同、全力で努力を続けてまいります。

今後とも格別のご指導とお引き立てを賜わりますようお願い申し上げます。

平成27年1月
株式会社 商工組合中央金庫
取締役社長

杉山 秀二